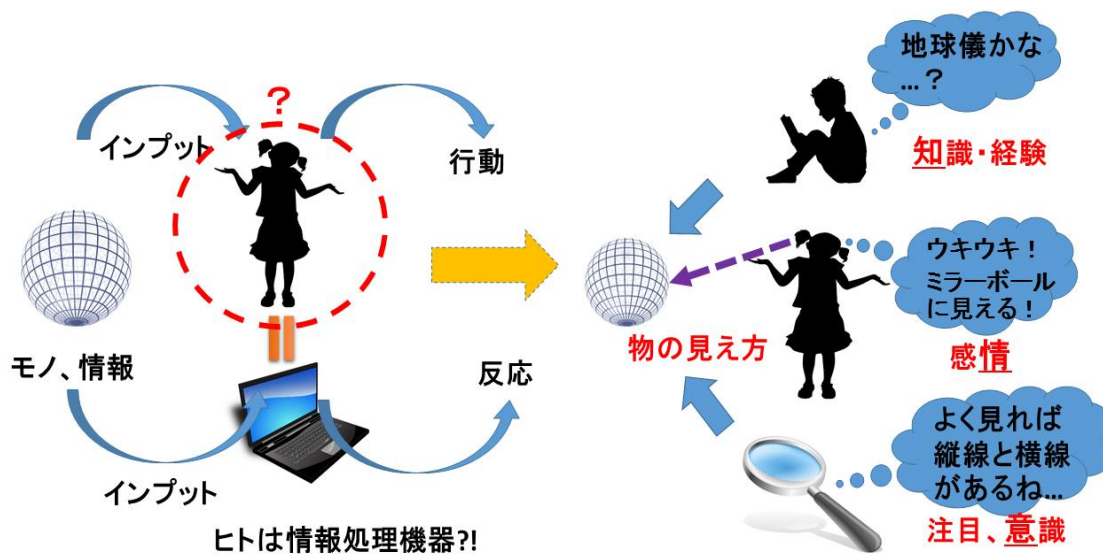


⑤講義題目 『物の見方が変わるエッセンス—認知の心理学』

★開講言語 日本語

★授業形態 講義科目

♣ そもそも…認知心理学とは？



♣ 「認知」とは、「物事をどのように捉えているのか？」を指します。

物事の見方、これは認知心理学で大きな関心事の一つです。

♣ 物事の見方にはいろいろな背景が影響を及ぼしています。

認知心理学の大きな特徴の一つは、このようなブラックボックスの部分

- ・モノや情報をどのように処理しているのか？
- ・処理過程でどんな要素が関わっているのか？

を少しずつ明らかにしていく学問です。

♣ 20 世紀に入り、機械化が進み、暮らしは便利さを極めてきました。

しかし、作られたモノが、本当に人にとって使いやすいのか？使い心地が良いのか？
この視点で検証を行うときに、「認知心理学」が活躍します。

●授業の目的

我々は日々普段何気なく生活を送っています。例えば、物の見方。当たり前のように奥深いその裏側。例えば、棚に陳列されたあまたの商品の中から自分が探し求めている商品を見つける作業。身の回りに飛び交う途轍もない量の情報を実に効率よく処理しているが、どのようにそれが成り立っているのか。

この講義では、このように、★我々が普段意識せずに行っている一見あたりまえの現象の背後にあるメカニズムについて、認知心理学の理論を用いて見ていくことで、新しい物の見方を習得します。また、併せて★どのような工夫をすればチャンスをつかんだり、ミスを防げたりできるのかについて考えることで、大学で求められる能動的な学びに不可欠な思考力、創造力を高めます。

●到達目標

知識・理解

(1)「意」(注意)の中でも、「選択」「持続」「分配」「引きつけ方」の4観点で具体的な実例を挙げながら、説明することができます。

思考・判断

認知心理学における「知」「情」「意」の概念に基づき、

(2)それらが物の見方にどのような影響を与えているのかについて、仮説を立て、説明することができます。

●講義内容

認知心理学の中の一関心事「物の見方」、普段意識をせず当たり前の現象だと思っていま
せんか。実は状況によって千変万別です。影響を与えている背景として、数えきれないほど
ありますが、大きく分けて3タイプ(知・情・意)に分類できます。

この授業では、「知」・「情」・「意」が物の見方にどのような影響を及ぼすのかについて見
ていきます。また、「知」・「情」・「意」にはどのような側面があるのかを合わせて見ていきま
す。

実際の現象を通して、

① この分野の研究によって明らかにされたメカニズム(仮説)

② 個人のアイデア

実例+メカニズム / 解決したい問題+どのような方法を用いるか?

を混ぜ込みながら進めていきます。

※授業では、毎回各自が考える課題、他の学生と議論する課題を取り入れています。

着眼点、発想力、思考力、表現力を一気に高める機会がふんだんに散りばめられていると
思うので、最大限に活用してみてください。

🍏全体図、要点確認(入口)

第①回：「物の見方」— 日常の中の非日常—

「物の見方」の先、背景

ディスカッション

※毎回あり→到達目標(2)

🍏「知」⇒物の見方

第2回：知識・経験に影響を受ける景色

—現象を楽しむ、工夫見え方を変えてみる—

🍏「意」⇒「物の見方」

第3回：注意に影響を受ける見方

※第4～7回→注意の4側面

第4回：あまたから選ぶ

第5回：集中すること

第6回：マルチタスキング

第7回：注意を引くもの、注意を向けるもの

※第8・9回→「意」⇒「物の見方」⇒「問題」

問題解決のアプローチを考える。

第⑧・⑨回：工夫注意とエラー

🍏「情」⇒「物の見方」

第10回：「情」⇒「物の見方」

※第11・12回→「情」⇒「物の見方」を変えるには？を考える。

第⑪・⑫回：工夫感情を操作する

🍏授業で触れた知識・積もった経験を生かす(出口)

第⑬・⑭回：具体的な課題を挙げ、アプローチ法を考える

第⑮回：振り返り—授業で得たことは？何に活かそうか？—

小レポート

→到達目標

第1～3、8～14回→(2)

第4～7回→(1)

最終レポート

→到達目標(1)(2)

●授業外における学習

この講義をご自身にとって実りのある経験にするには、暗記ではなく、「常になぜ?」「どのようにになっているのだろう?」と自分の中で発問し、考え、口に出して他人と意見を交わすことが大事です。

そのためにも、

- ・規定の課題(宿題の小レポートのとき)を完成させること
- ・毎回ディスカッションを行うので、

授業後にしっかり復習を行うこと、疑問・アイデアについてまとめてくることを心がけてください。

■成績評価

ディスカッションでの発問発言(34%)、

授業中もしくは宿題としての小レポート(39%)、最終レポート(27%)

※13 回分の小レポートと最終レポートを全て提出することが、単位認可の必須条件です。

(なお、欠席をした場合も小レポート課題に取り組みます。)

●受講生へのメッセージ

世間では、心理学は実学ではないとよく言われます。しかし、心理学の中でも、**実学を成り立たせる上で、欠かせない隠し味のような要素や考え方がたくさん存在しています。**ぜひ、この授業を通して、自分の見方を変えてみてください。**文系・理系、学部・分野を問わず、実際の生活、今後の人生に生きるリソースを得ることができると思います。**シラバスを読んで少しでも興味を持ってくださった方、広い視野を持った発想力を養ってみたいという方、大歓迎です。